

令和7年度 第3回 草津市スポーツ推進審議会 会議録

■日時：

令和7年11月4日（火）18時00分～19時45分

■場所：

草津市役所6階 教育委員会室

■出席委員：

岡本委員、杉田委員、平尾委員、中野委員、小川委員、稻田委員、吉野委員、板坂委員、庄司委員

■欠席委員：

小傳良委員

■事務局：

教育委員会事務局 奥谷理事、安藤副部長
岩城副部長（国スポ・障スポ推進室長）
西田副部長（学校教育課長）
学校教育課 中村主査
スポーツ推進課 遠藤課長、高倉課長補佐

■傍聴者：

0名

1 開会

【事務局】

本日は何かとお忙しいところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、国スポ・障スポにおきましては、皆様のお力添えのおかげをもちまして無事に終えることができました。本当に、これも皆様のおかげだと思っております。この場をお借りして御礼申し上げます。

さて、先の審議会では、アンケート調査結果等を踏まえた第3期草津市スポーツ推進計画の骨子案について御議論をいただきました。本日は、前回の会議や府内関係課等への意見照会結果を踏まえて作成しました第3期計画の素案をお示しさせていただいております。

限られた時間の中ではございますが、様々な観点から御意見をいただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

2 審議案件

(1) 第3期草津市スポーツ推進計画（素案）について

【事務局】

資料1に基づき、「1. 計画の基本的事項」、「2. 策定の背景」、「3. アンケート調査結果」、「4. 本市のスポーツ推進における今後の主な取組の方向性」、「5. 施策体系図の見直し」について説明

【会長】

国スポ・障スポのレガシーとして、スポーツボランティアの取組をどのように今後につなげていくかが非常に重要である。特に、中高年の方々の参加が多く、非常に貢献されていた。私も障スポにボランティアで参加したが、滋賀県ではマニュアルが準備されておらず、従事内容が把握できない状況であった一方で、国スポでは、草津市の職員の方々が従事内容を丁寧に指導されていたという違いがあった。スポーツボランティア活動を推進していくためには、マニュアルづくりが非常に重要になると感じたところである。

【委員】

国スポでは全部で5競技を観戦したが、学生のボランティアがきびきびとモップがけを行う等、ボランティアの方々がすばらしく、見ていてとても気持ちが良かった。また、高齢者の方が多く、「スポーツを近くで見たいと思って参加した」という意見もあり、そういう方がたくさん来られていたのは良かったと思う。

【委員】

普段見る機会がない競技を見られたことや、家族等と一緒にスポーツを近くで見られたことは、こどもたちにとってとても良い機会になったと思う。

【委員】

本校では、男子バレーボールを観戦した。授業時間の関係で最後までは見ることができなかったが、非常にレベルが高く、良い試合であった。間近で競技に触れることで、生徒達は非常に興味が湧いたようであり、とても良かったと思っている。

【会長】

ボランティアの内容は様々であり、バレーボールのラインズマンには、高校生が従事していた。高校生にとっては今まで経験したことがないハイレベルな試合であり、良い経験になったと思う。

【事務局】

資料1に基づき、「6.『各施策における主な取組・事業』および『成果指標』」について説明

【委員】

基本方針1「子どもの体力向上と運動・スポーツ活動の推進」の成果指標について、男子は全国平均点を上回っているが、女子は下回っていることを受け、学校でも様々な取組を行い、学校体育の充実を図っているところであるが、さらに必要であると思った。

【委員】

基本方針1の施策（4）「地域と連携した部活動の運営」の「①運動部活動支援事業」について、現在も各校、指導員・支援員に来ていただいており、部活動に参加している生徒にとっては、専門的な指導を受けられる非常に良い機会になっていると思う。

【会長】

体力テストの結果を成果指標とすることについては、事務局と事前に意見交換を行ったところである。都会型エリアは点数が下がる傾向にある一方で、取組を具体的に実施している福井県、石川県はかなり点数が高く、運動機会を増やせば点数が上がる傾向にある中、現在のカリキュラムの実態で体力テストの結果を成果指標とすることが適切かどうかである。ただ、今回、「卒業した後も自主的に運動やスポーツをする時間を持ちたいと思うと答えた生徒の割合」という新たな成果指標があるので、体力テストの結果も成果指標の一つになりえると思う。

また、運動部活動支援事業については、草津市として誰がどのように取り組むのかもう少し具体化した方が良いので、今後検討していくべきかと思う。

あともう一点、多様な運動を経験させるということは大事だと思う。海外はシーズン制であり、1年間に複数の種目を実施している。そのような支援をどこがやるのか、スポーツ協会に様々な取組を考えていただく必要があると思う。

【会長】

続いて基本方針2「生涯にわたる運動・スポーツ活動の推進」について、意見等はあるか。施策（1）「ライフステージにあわせた健康づくりの推進」の「③ウォーキング・ランニングの推進」について、草津市スポーツ推進委員協議会では、過去、ウォーキングマップを作成している。これを今後どのように有効活用していくのか。特に、ウォーキング・ランニングについては、関心の高さがアンケート結果にも表れていた。

【委員】

現在、草津市スポーツ推進委員協議会では、「草津市体力づくり歩こう会」を毎月実施している。中には100回以上参加される方もいるが、特定の人に偏っているという意見もあり、いろいろな方に広く参加いただいているというところまでは行き着いていないと思う。このことから、来年度においては、草津市体育振興会連絡協議会が開催するスポレク祭のプログラムの一つとして「歩こう会」の実施を計画しており、ウォーキングマップ等を使用し、市内の名所を紹介したいと考えている。

【委員】

休日には若い方がお子さんを連れて歩いている姿を見掛ける。マップを作るのであれば、「安心して歩ける」という表示や「ここに駐車して、こういう歩き方ができる」という表示があれば良いと考える。

また、観光ボランティア協会に所属しており、ウォーキングマップを作成しているが、コラボして作成するのも良いのではないか。ただ歩くのではなく、親子等でその地域の名所等の説明を受けながら歩くと、興味を持ってもらえるのではないかと思う。

【会長】

ウォーキングマップをこれまでどのように活用されてきたのかを調査しても良いかと思う。せっかく作成したものをそのままにするのではなく、活用の仕方を考えても良い。また、スポーツ推進課だけではなく、他課との連携も重要になるかと思う。

【会長】

成果指標「20歳以上の人の週1回30分以上のスポーツ実施率」について、30歳代が低く、また、40歳代もそれほど高くない中で、目標値を70%に設定するのは妥当かどうか。

【事務局】

令和6年度実績は全体で58.1%であり、現行計画の目標値65%より7ポイント程度下回っている状況ではあるが、国・県の現計画では70%の目標値が掲げられており、本市においても70%を目指す必要があると考えている。

【会長】

70%という数字は変えないとても、働き世代の運動実施率を上げるためのキーワードがあったほうが良い。1期計画から2期計画に移る際に、30歳代、40歳代の運動実施率が低いと言っていたが、少し上がってきている。

【会長】

続いて、基本方針3「競技スポーツの推進」について、意見等はあるか。

【委員】

立命館大学ではしっかり活動しているクラブが多く、地域の中学校や高校と一緒に練習する機会を設ければ、スポーツが楽しいと思え、競技力も向上するかと思う。

【会長】

大学では、昨年から、地域との交流プロジェクトを積極的に実施すると言っている。いくつかのクラブでは実施しているが、もう少し広げようという取組があり、オンデマンドの講座を実施し、広げていく必要があると思う。また、このことは指導者育成とボランティアにも関わってくる。

基本方針4「運動・スポーツ環境の充実」の施策（2）「スポーツボランティア活動の推進」については、冒頭でも発言したが、国スポのレガシーとして、国スポで作成したマニュアルを情報発信し、競技団体と共有することが重要と考える。

【委員】

施策（5）「社会体育施設等の整備・充実」の「④手軽に運動・スポーツに取り組める環境づくり」について、水泳の場合、帽子やゴーグル、水着、タオルなど一式をそろえる必要があり、準備自体は難しくないものの、少し手間がかかる。草津市立プールでは帽子等の販売が行われており、こうした販売や、さらにレンタルによる貸出しがあると、より手軽に、手ぶらでも参加しやすい環境になるのではないか。

【会長】

非常に大事なところかと思う。

【委員】

施設の利用について、現在、立命館大学のバスケットボール部では大学の体育館を使用しているが、使用できない場合には代替の施設を探す必要があり、実際、学祭の期間中に体育館が使用できず、練習場所が確保できないという問題が起きた。もう少し気軽に借りることができる体育館があると助かる。

【会長】

大学の立場で言ったらそうであるが、行政の立場から言うと、大学生が来ると一般の方々が借りられないという、逆の意見が出てくる。

【会長】

成果指標の目標数値は、国スポ・障スポのデータを反映して算定したものか。

【事務局】

成果指標「社会体育施設等の利用者数」の88万人については、現計画期間において最高値となる令和6年度の数値を採用している。その中には、国スポのリハーサル大会の約1万2,000人が含まれており、実質的にはこの分の増数を目指す目標としている。

【会長】

続いて基本方針5「運動やスポーツによるまちの活性化」であるが、国スポでどれぐらいの経済効果があったか数値は出ているのか。

【事務局】

来場者は速報値で6万7,000人であったが、経済効果については算出が難しい。

【会長】

来場者が草津駅の東口、さらには商店街に入っていくという行動はあったのか。

【事務局】

夜において、選手ではない関係者の方々は飲食店に行かれているようであった。

【会長】

非常に大事なことである。そういう点で観光部門との連携が重要となる。

【事務局】

S V リーグ女子の東レアローズにもY M I T アリーナを利用いただいているが、観客が試合後に市内で食事を楽しんでから帰ってもらえるよう、通常は午後1時や2時開始の試合を午後3時開始に変更するなどの工夫をしていただいた。また、商工観光労政課と連携して、割引券の配布や飲食店マップの作成などにも取り組んでいただいており、このような取組を通じて、経済的な波及効果や草津の魅力を感じていただける機会が広がればと考えている。

【会長】

成果指標としてどういう評価の仕方をするか議論していかなければならない。国スポの経験をいかにここで育てていくのかが課題である。

【事務局】

資料2に基づき、「基本理念（案）」について説明

【会長】

案①の「スポーツライフを楽しむまち」が草津らしくて良いと思うが、現計画の基本理念にある「健幸」という言葉は使用した方が良いと考える。

【委員】

「健幸」という言葉を使用することについて賛成である。

【委員】

「多様な運動・スポーツに触れる機会に溢れている社会を目指す」とする案②が良いと思った。

【委員】

これも良い。

【会長】

案②という意見も出てきたが、案②に「健幸」という単語を入れられないか。

【事務局】

案②に「健幸」を入れるのであれば、「スポーツと出会い、つながる健幸なまち くさつ」と考えていた。

【委員】

「健幸」は入れたいと思う。また、「つながる」の言葉はある方が良いと思う。

【委員】

漢字の「草津」と平仮名の「くさつ」はどういう違いがあるのか。

【事務局】

整合が取れておらず、お詫びを申し上げる。これまでの計画では平仮名を使用しているので、次期計画も平从名と考えている。

【会長】

行政において平从名を使用しても問題はないのか。

【事務局】

特に決まったルールはない。印象として、スポーツにおいては、漢字より平仮名の方が適していると考える。

【事務局】

案①と案②の違いについて説明すると、案①は、スポーツライフを楽しむことを幅広く捉えるものである。スポーツをすることに加え、国スポのボランティアのような活動や、先ほど意見のあった「手軽に運動・スポーツに取り組む」点など、幅広い視点を含めることができる。

一方、案②は焦点をより絞るもので、子どもの体力向上や運動・スポーツ活動の推進における「多様な運動・スポーツに触れる機会の創出」に重点を置く形である。

基本理念としての大意はどちらも示せるが、幅広く捉える場合は案①、焦点を絞って分かりやすく示す場合は案②が適している。

【会長】

時間がかかるので、案②を基本とし、事務局と私で検討させていただく。

その他、全体を通して意見等はあるか。

【委員】

基本方針4 「運動・スポーツ環境の充実」の施策（5）「社会体育施設等の整備・充実」の内、「⑤児童公園等再整備事業」は具体的にどういうことを想定しているのか。また、「⑥地域まちづくりセンター貸館事業(ex 健康体操・ダンス等ができる場の提供)」については、既に14学区で実施していると思うが、あえて記載する趣旨を教えていただきたい。

【事務局】

本事業は新規ではなく継続事業であり、詳細は資料3の71ページに記載しており、表の番号では42番、43番に該当する。

42番の児童公園等再整備事業は、老朽化が進む児童遊園を対象に、地元住民や利用者のニーズを踏まえて遊具等を順次再整備するものである。特に運動に関連するものとしては、健康遊具の導入などを行っている。

43番の地域まちづくりセンター貸館事業は、貸館を通じて健康体操やダンスなどの運動・スポーツ活動が行える場所を提供するものである。

【委員】

貸館は従来より行っているものであり、改めて記載する必要があるのか疑問である。

生涯学習課では、今年度より、新たな習い事講座を開催されており、受講者が各まちづくりセンターの活動団体に参加するきっかけとなるよう企画されていると聞いている。

私自身、草津まちづくりセンターに通っているが、今年度は日曜・祝日にコーラス講座が開講されており、今月9日が最終回である。他のセンターにおいても、継続的な参加を促すために同様の講座が設けられているとの説明があった。

ここに記載されている内容についても、まちづくり協働課が貸館を活用し、健康体操やダンス等の企画を立ち上げ、既存団体のみならず新規参加者を募る取組であると理解したため、確認を行った次第である。

児童公園の件については、今年10月に市長とのまちづくりトークの場で、草津学区より管理負担軽減の施策についての要望があり、計画の記載内容がそれに関連しているのかと考えたが、時期的に早すぎるため、別件であると判断し、確認を行った次第である。

【事務局】

地域に根差したスポーツ推進については、我々が直接的に関与するというよりも、地域の皆様に自主的な活動をお願いしながら、間接的に展開を支援している状況である。そのため、次期計画期間の8年間においても、引き続き地域の皆様にご協力いただきたいという思いを込めて、このような形で盛り込んでいるものである。

【委員】

基本方針1「子どもの体力向上と運動・スポーツ活動の推進」の施策（2）「子どもが多様な運動・スポーツに触れる機会の創出」の内、「放課後の学校体育施設を活用した様々な運動・スポーツの体験会の開催」について、5時半以降に実施している学校体育施設開放事業の中で実施するのか。もしくは、4時以降から5時半までの間となるのか。現時点で想定されている時間帯や具体的な種目について教えていただきたい。

【事務局】

時間帯については今後学校との調整が必要となるが、授業終了後の時間帯として、午後4時から5時頃までを想定している。種目についても現段階で確定しているものはないが、アンケートの結果から、挑戦してみたいスポーツや自分のペースでできる種目へのニーズが一定数あることが把握できたことから、そうしたニーズを踏まえた種目の選定を行い、体験会のような形で展開していきたいと考えている。

【会長】

委員の皆様から頂いた意見を基に、事務局と私で修正を加えたいと思う。

先ほど意見があったが、働き世代の運動実施率をどう上げていくのかは非常に重要な課題だと思う。よく指摘されるのは、時間的余裕の不足、情報へのアクセスの困難さ、共に取り組む仲間の不在、活動場所の確保の難しさ、そして経済的な負担といった点であり、これらが働き世代における参加の障壁となっている。

本計画においては、こうした課題を直接的に「ない」という表現を用いることなく、どのように解消し、参加を促進するかという観点から、さらに内容を精査し、施策として反映させていきたいと考えている。

【事務局】

資料には記載がないが、口頭にて説明を申し上げる。本件は計画そのものに関する内容ではなく、計画の進行管理に関するものである。本計画の進行管理については、毎年度、草津市スポーツ推進審議会を開催し、点検・評価について御審議いただいているところであるが、加えて、「草津市スポーツ推進連絡協議会」を設置している。この「連絡協議会」は、岡本会長に座長を務めさせていただいている他、本日お集まりの皆様が所属する団体の実務レベルの方々で構成した組織体であり、こちらも毎年度開催の上、計画の進捗状況等に対して御意見を頂戴しているところある。しかしながら、委員の構成団体および審議事項が審議会と重複しており、審議会のみで目的達成が可能と考えられることから、連絡協議会については、今年度をもって廃止する方針である。については、皆様の御理解を賜りたいと考えている。

【会長】

重複する部分があるため廃止するというものであり、承知した。

3 閉会

【事務局】

委員各位におかれましては、慎重なる御審議をいただき、誠にありがとうございました。本日いただきました皆様の貴重な御意見を踏まえながら、第3期草津市スポーツ推進計画の策定を進めてまいりたいと考えております。

なお、第4回目の審議会につきましては12月下旬に開催を予定しております、答申及びパブリックコメントの実施に向けた計画の最終案をお示しさせていただきたいと思っておりますので、引き続き御協力いただきますよう、よろしくお願ひいたします。

それでは、これにて閉会とさせていただきます。

皆様、どうもありがとうございました。

以上。